

<https://www.youtube.com/watch?v=1ykzUz5Rckg>

「我々は、イスラエルの民主主義の緊急事態に直面している。我々は、ヤコブの家にとっての危急の時に直面している。イスラエルの安全保障および、イスラエル社会にとっての緊急事態、イスラエルの民主主義にとっての緊急事態。全部、私たちにとって大切なことだ。内閣の樹立は（まだ引用しています）人々の希望であるだけではない。このような時代においては、これまで以上に、経済上、安全保障上の必要性がある。私たちが何年も経験しなかったようなものだ。」イスラエルは岐路に立たされています！彼は続けて言います。
——引用します—— 「伝道者の書で読んでいるように、

伝道者の書3

6 ...保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。

7 引き裂くのに時があり、縫い合わせるのに時がある。黙っているのに時があり、話をするのに時がある。

私の妻は、いつもそれを私に向かって引用しています(笑) 「黙っているのに時がある。」

「ハニー、口数を少なくして。」 オッケー。脱線しましたね。

8...黙っているのに時があり、話をするのに時がある。

9 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦うのに時があり、和睦するのに時がある。

私が面白いと思うのは、リブリンが伝道者の書第3章から、よく知られたくんだりを引用していたことです。皆さんもよく知ってますね。それは、時や季節のことで、それについて、多くの詩歌が書かれてもいます。しかし、彼がこのくんだりを引用することについて、本当に印象的だったのは、第3章は、文脈において、時間と永遠との間に、強力なコントラストを描いているということです。つまり、天の下では、何事にも定まった時期があり、それは次に、私たちの目を天国に向けさせるべきです。それがそのくだりの文脈です。その章のもっと後で、彼が引用を続けて、11節に到達していたら、こう書いてあります。聞いてください。

伝道者の書3

11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」

言い換えれば、日の下で、この地上で人間に与えられたすべてのことにはその時と目的があります。しかし、すべてが終わりを迎える時が来るのです。それが肝心なことなんです。これは病的に聞こえるかも知れませんが、伝道者の書7章で... 私は、追悼礼拝を行う時は、たいてい決まって、伝道者の書7章から引用して教えます。その理由は、ディナーパーティーに行くよりも、葬式に行く方が良い、とソロモンが言うからです。何と興奮めなことを言うんでしょう！ねえ？彼は「死ぬ日は生まれる日にまさる」と言っています。まず皆さんの心の中は、え〜、わ〜お。それは...イエ〜イ。しかし、彼は理由を説明します。ソロモンいわく、私たちは、葬儀の会場にいるときに、より内省的になるからです。分かりますね、追悼式では、私たちはこの人生の短さと死の現実を心に留めることが多いです。どうしてでしょう？それは、神が私たちの心に永遠を与えられたからです。結婚式で皆さんに会ったなら... 「おやまあ！」♪〜「Happy Days (幸せな日)」です♪〜歌うのをやめなくちゃいけませんね...分かっています...とにかく、物事が順調に行ってます。私たちは人生の短さについて考えてはいません。ヤコブが言っているように「**私たちのいのちは、霧に過ぎない**」とは考えていません。 **(ヤコブの手紙4:章14節参照)**

永遠... 天国... そんなの遠くのもので。これっぽちも考えていません。「お葬式に行け？」ほ〜...。マルティン・ルター有名な言葉があります。「最高の健康状態にあっても、いつも目の前に死がなければならぬ。私たちがこの地球に永遠に留まることを期待しないように。しかし、(私はこれ好きです) 片足を空中に置いておこう。」それが「伝道者の書」の要点です。人生の短さ。人生の虚しさ。この世界における、人生の一過性。この世界は過ぎ去っていきます。ある人がうまく言いましたが、「まもなく一つのいのちが過ぎ去り、キリストのために行われたことだけが残るでしょう。」これが最後の晩餐の本質だと言ったら、どうでしょう。

今日は聖餐式を行ないます。話を聞いてください。私はこれを考えていました。これが、救い主が心に抱いておられたものです。それは、片足を空中に置くことでした。なぜなら、主は、私たちに与えられる永遠のいのちという無償の贈り物の代価を全額支払われるために、今にも死に行こうとしておられたからです。肝心なのは、人生は短いということです。それには終わりが来ます。神は、時間のために皆さんを創造されたのではありません。ええ、そうです。天の下にある全てのことには定められた時、目的があります。しかし、神は時のために私たちを創造されたのではありません。神は、永遠のために私たちを創造されたのです。わたしは戻って行こうとしています。戻って来るのではありません。しかし、私はいつも皆さんに一番に意識し、覚えておいて欲しいのです。こういう風に終わるのだと。常にその結末を心に抱くようにしてください。永遠の観点から生きるのです。それが、救い主が最後の晩餐の際、心に抱いておられたものです。時が来ました。主は死に行こうとしておられます。主の地上での人生は、終わりを迎えようとしていました。主は十字架につけられ、葬られ、そして、死からよみがえられることになっていました。死を、完全に打ち負かして。あの、死は神の最初のご計画にはなかったのですよ。死は、この世に罪が入ったから、入って来たのです。初めのアダムによって。

イエスは、第二の、そして最後のアダムと呼ばれています。主は来られて、完全に、人類の罪のための罰を贖われました。これが良き知らせです。これが、イエス・キリストの福音です。

人となられたイエス・キリストにある救いの良き知らせです。これが今日、聖餐式の卓で祝うものです。コリント人への手紙第一の15章で、使徒パウロはコリントの教会にこう言いました。

コリント第一 15

1 兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。

2 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。

3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと

4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてある通りに、三日目によみがえられたこと、

ちなみに、パウロはテサロニケの教会にも言うことになります。私たちは両方の書簡の学びに入っていきますから。主が再び戻って来られる、と。これが良き知らせがなのです。そこで終わりではないんです。主は三日目に復活されて、それから、ある日また戻って来られるのです。すぐに、本当にすぐに。これが良き知らせです。それが、人となられたイエス・キリストにある救いです。私たちは、ここ二年以上にわたって、すべての預言アップデートの終わりにこのような「救いのABC」をやってきました。私たちがこれを行う理由は、子どもでも分かるくらい簡単な、救いの説明だからです。

イエスは、「子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません」と言われました。

(マタイの福音書18章3節)

だから、頭文字のABCです。

Aは、神に対して罪を犯したと「認める (Admit)」または「認識する (Acknowledge)」。これが悔い改めの意味です。心を変えることです。皆さんの罪を認め、そして、罪の赦しを求めて救い主の方に方向変換する。

ローマ人への手紙3章10節には、

ローマ3

10 義人はいない。一人もいない。

とあります。ローマ人への手紙3章23節には、

ローマ3

23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、とあります。

私たちはみな、罪人として生まれたので、天の御国に入るためには、新しく生まれなくてはなりません。

ローマ人への手紙6章23節

ローマ人6

23 罪の報酬は死です。

これが、すべての人に課せられた死刑宣告です。すべての人が罪を犯したからです。「しかし、」ここに良き知らせがあります。

23神の賜物は...[これは主によって全額支払われた私たちへの贈物です]...私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

これが、Aです。次にB。Bは、心でイエスは主だと「信じる (Believe)」

ローマ人への手紙章10章9節～10節

ローマ10

9 もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。

次に、C。主の御名を「呼び求める (Call)」。または、これもまたローマ人への手紙 10章9節と10節にあるように、「口で告白する (Confess)」。

ローマ10

9 もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。

ここに理由があります。

ローマ10

10 人は心で信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

最後に、ローマ人への手紙章10章13節です。

ローマ10

13 主の御名を呼び求める者はみな救われる。

さて、皆さんは私がかかなり短く終わらせて、聖餐を祝う時間をかなり多く残していることに気づかれたでしょう。

そのとおり、聖餐式とは記念し、祝うことです。そして、私たちが今日の聖餐式に当たって、ここに私が望むものがあります。今日、私が主に求めていることは次の通りです。私は、聖餐式を、ただ毎月第一日曜日に行う、機械的な丸暗記したようなものにしたくありません。今日の聖餐式は、その意味で、非常に特別なものになりたいと思います。私は、それが、こんにち世界が置かれている非常事態に照らして、私たちが即座にとる行動になってほしいんです。たぶん、このように言うことができます。今日の聖餐式は、空中に片足を上げることです。私たちの心を主に留め、主を待ち望みながら、私たちの目は主を見つめ、この世界から目を離すのです。この人生から。この人生の短さから。これは神に心を探っていただくための内省的な時間なのです。私たちが神を知り、神を愛し、神の声を聞くことを妨げているものがあるかどうか。神に仕えること... などなど、いくらでも続けられます。

天の父なる神様、ありがとうございます。主よ、天の祝福された希望に感謝します。主よ、永遠という現実感謝します。主よ、聖餐式のテーブルと、それが表すすべてに感謝します。

主よ、私たちは周りを見わたして、こんにちの世界で起こっていることを見ると、ますますはっきりとしてきています。私たちは沸点に達しています。私たちは、その時点にきています。ですから主よ、感謝します。

あなたの御言葉、より確実な預言の言葉があることに感謝します。

私たちには、あなたがこの世界から、私たちを連れ出してくださるという望みがあることを感謝します。

主よ、感謝します。イエスの御名によって。アーメン。

皆さん、いらしてください。(♪～音楽～♪) 主よ、感謝します。みなさんの忍耐に感謝します。

私は本当に、今日は、急いでやりたくなかったんです。私はいつも、聖餐式の日曜日はとても急いでいるように感じるのです。学びがあり、預言アップデートがあり、それから聖餐式。私はいつも、皆さんと、皆さんの時間を慮ろうとしています。皆さんの忍耐に本当に感謝します。本当に、繰り返しますが、私は今日の聖餐式が、何かとても特別なものになってほしかったんです。

ルカの福音書22章に、ルカが聖霊に導かれて書いた描写があります。

ルカの福音書22章

14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、使徒たちも一緒に座った。

15 イエスは彼らに言われた。

ここです。片足を空中に上げるところです。

15 「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを切に願っていました。

16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」

主はもうすぐ、それをまた繰り返されます。言い換えれば、私たちが今日ここでやっていることは、皆さん、その日、その素晴らしい最後の日に、あなたの注意を向けるということです。その日には、今日私たちがやっていることが、最終的に成就されます。それは・・・——これをちゃんと言いたいのですが——まるで、イエスがこう言っておられるかのようです。「わたしは待ちきれない。」「待ち遠しい、狂おしいほどに待ち遠しい」「その日が待ち切れないよ！」ここで今日私たちがしていることは、天の御国での成就されます。

主は、結婚式、小羊の祝宴について言及しておられるのです。想像出来ますか？ 理解してもらおうと思うんですけど、確かに気が遠くなるようなことです。しかし、私たちは実際に主とともにいて、主と一緒にいただくことになるんです。天国で、これをじっくり考えてください。それが、主が彼らに仰っていることなのです。そして、17節に続きます。

ルカの福音書22章

17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

18 あなたがたに言います。[さあ、二回目です] **今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」**

こんな風に言ってもいいでしょうか？ イエスが彼らにこう言っておられるようなものです。

「ここでやっていることの唯一の目的は、あなたがわたしと一緒にそこにいることを常に覚えておくようにすることだよ。」それは私たちに天の御国の主を指し示すことです。だから私たちは、永遠の観点から、人生を生きているのです。例の言い回しがありますが、私はこれには全く反対なので、書き直しました。皆さんの気に障らなければいいですが、私たちはものすごく御国思考になって、地上では善良な者にならざるを得ない事がある。イエスは言っておられます。「わたしはこの地上を離れる準備をしており、天国に行く」そして、私たちは今、聖餐をとっていますが、天国でこれをやる日が来るのです。ルカは続けます。

19それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これはあなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

さて、私たちの手にあるのは、私たちの身代わりに裂かれた イエス・キリストの体の象徴です。それは過越の預言の成就ですが、過越しでは、殺されるべき小羊の皮が、（骨ではなく、）その皮が、血を流すために裂かれました。過越しの子羊の成就であるイエスは、私たちの過越しの小羊となり、そして、一度きりのいけにえとなりました。そして言われました。

「これは、あなたのために裂かれた わたしのからだです。わたしはあなたにこれを取ってほしい。これを行うとき、あなたにはわたしを覚えておいてほしい。あなたのためにわたしがしたことを。あなたのためにわたしは死んだ。そしてあなたを贖った。わたしのからだはあなたのために裂かれた。」

一緒にいただきましょう。主よ、ありがとうございます。あなたのからだをありがとうございます。

この儀式に感謝します。あなたと、あなたが私たちにしてくださったことを私たちが覚えて、これを行なわせてくださることを感謝します。主よ、感謝します。ルカは続けます。

ルカの福音書22章

20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」

私たちが歌い、口にし、知っていることがあります。その血には力があります。その血には力があるのです。手にしているのは、私たちのすべての罪の赦しのために流された、イエス・キリストの血の象徴です。

――過去、現在、未来の私たちのすべての罪の代価を完済するために。全部支払われたんです。

もう少し辛抱してお付き合いください。おそらくこれは、今日ここにいる誰かのための言葉です。

あなたは、重たい罪悪感と、敵からの非難を持って教会にられました。この一週間ずっと、敵はそれをあなたに嫌というほど見せつけ、休む間もなくあなたに思い出させました。実際、彼は今日、あなたに来させないようにしたでしょう。

「僕だったら、教会には行かないよ。」 「大変だぞ。彼らがお前のしたことを知っていたら…」 今私がこう言った時に、隣に座っている人を見ないでくださいよ。分かりますね、これが敵のやり口です。彼は、私たちをキリストから遠ざけるためなら何だってします。彼は非難と罪悪感を使ってそうします。パウロはローマ人への手紙8章1節で言っています。

ローマ8

1 こういうわけで、今や、罪に定められることはありません。

罪悪感ありません！ サタンがあなたの人生に築き上げた罪悪感と非難のインフラは、崩壊します！ なぜなら、主がすでに贖ってくださったからです。支払済みです。完済です。今日、あなたがこの教会を出るとき、あなたは罪悪感と非難から解放されてここを去るのです。なぜなら、その血には力があるからです。どんなに酷かったかは問題ではありません。もう、支払われたのです。その血で、赦されたのです。それが今日、私たちがここでお祝いしているものです。一緒に飲みましょう。ご起立ください。

主よ、私たちは感謝してもし切れません。天国のこちら側では、私たちには出来ません。

しかし、私たちも、その日を切に願って、待ち焦がれます。ここで今日、私たちが今やったことが、最終的に成就するときを。主よ、このことに感謝します。聖餐式のテーブルと、その意図された効果に感謝します。それは私たちの目を、私たちが待ち受けているものに向けさせてくれます。

主よ、私たちも待ち遠しいです。主よ、早く来てください。マラナタ。

主イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

アーメン。神の祝福がありますように。

主に祝福された一週間をお過ごしください。

木曜日に箴言の聖書の学びがありますが、お会いできなかったら、次の日曜日に、主のみこころならば、お会いしましょう。

メッセージby JD Farag

牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7